

日本の郷土玩具ばなし

紅・文 佐々木一澄

第9回 下川原焼土人形（青森県）

# 「人形笛」



上段左から：鳩、雪だるま、みみずく、中段左から：俵牛、だるま、犬乗り唐子、下段左から：餅つき兔、えじこ（赤ちゃんを入れておく籠）、鯛くわえ猫

色鮮やかで小さな土人形の背には吹き口がつけられ、笛になっています。青森県弘前市の下川原と呼ばれる地域で作られる下川原焼土人形です。

江戸時代の文化7年（1810年）に領内の産業開発に力を入れていた藩主・津軽寧親は、筑前（福岡県）の陶工・高谷金蔵を招き、窯を作り、日用雑器を焼く傍ら、余暇に土人形を作らせました。それが下川原焼土人形の始まりだと言われています。

津軽の生活を思わせるモチーフが多く、色も紫、黄、赤、緑、黒とねぶたのように鮮やかです。また、大陸との要地であった筑前の陶工を始祖としているため、唐人など中国、朝鮮の影響を感じさせるものもあり、筑前と津軽の風土が混じりあった、ここにしかない情味を感じさせます。

数え切れないほど多くの人形が作られていますが、中でも小さな人形笛はとても愛らしく、魅力的です。中が空洞という土人形の特徴を生かし、どんなモチーフにも背にちよんくと吹き口をつけ、笛にしています。犬、猫、牛、雪だるま、唐子など様々な種類が作られ、無理矢理吹き口をつけられたことで、予期せぬフォルムになった人形たちもなんだか楽しげに見えます。

笛を吹いてみると、子どものはしゃぐ声にも似たピーツという甲高い音がします。当時、下川原のあちこちでこの音がしていたのかと思うと、可笑しさがじんわりと込み上げてきます。

佐々木一澄（ささきかずと）

1982年東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。雑誌、書籍、絵本などの仕事を中心に活動。絵本作品に『からだあいうえお』（保育社）、『うみとりくのからだのはなし』（童心社）など。著書に『てのひらのえんぎもの』（二見書房）、『こけし図譜』（誠文堂新光社）。



Planet VAN VAN  
2024 Spring Vol.142  
2024年4月1日発行

発行/株式会社プラネット  
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目31番 文化放送メディアプラスビル3階  
<https://www.planet-van.co.jp/>

■発行人/坂田政一 ■編集制作/株式会社ダイヤモンド・リテイルメディア

送付先変更などのお問い合わせ先

プラネットコールセンター Tel.0120-023-811 Mail:sc@planet-van.co.jp



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用